

2. 事業の概要と成果																					
(1) 上位目標の達成度	教育のジェンダー格差の比較的大きい3村で、計4ヶ所の公立小学校の学校環境を改善し、女子870名を含む計1,450名の子どもに質の高い初等教育を確保した。同時に、校舎の整備や学校家具の提供のみでなく、教師、保護者や行政職員への研修、生徒会の組織強化、および地域における女子教育理解促進のための啓発活動を行うことで、学校教育の質の向上と子どもを取り巻く対象地域社会の意識啓発に貢献した。																				
(2) 事業内容	(ア) <u>女子教育普及のための学校環境整備</u> マンセラ郡の小学校4校で子どもたちが安全に学習できる環境を整備した。鉄筋コンクリートの校舎(3校)は耐久年数約60年で優れた耐震性を実現している。土地の傾斜度合が高く資機材輸送が困難で鉄骨構造を使用した校舎(1校)も強度の高い鉄骨材を用い、壁面を除き鉄筋コンクリートと強度や耐久年数が変わらない。一般競争入札で選定された業者より現場監督が配されたが、当団体のエンジニアも各事業地に配置し、工事の進捗と品質の日常的なダブルチェックを行った。また、郡復興局のエンジニアや教育局職員が事業地を視察し、工事内容が学校設備の基準に適合するかなど検査、確認するとともに、エンジニアに対し適宜フィードバックを提供した。なお、Bajna小学校について、擁壁を長くするよう教育局からの変更要請を受け、全体の工程が変更されたため、学校備品の設置や教育局への正式な引き渡しまでに遅滞が発生したことから、事業期間を6日間延長した。対象校の工事内容および提供家具は以下の通り。 表1: 建設工事および提供した学校家具の概要 <table><tr><th></th><th>学校名</th><th>工事内容</th><th>供与家具</th></tr><tr><td>1</td><td>Bakki Pakkha 小学校</td><td>鉄筋コンクリート構造2階建校舎、6教室、職員室、トイレ、擁壁、校門、標識、水タンク、浄化槽など</td><td>机/ベンチ70、講壇6、教師用椅子6、教師用机1、校長用椅子1、スチール戸棚1、掲示板1など</td></tr><tr><td>2</td><td>Taar 小学校</td><td>コンクリート構造2階建校舎、4教室、トイレ、擁壁、校門、標識など</td><td>机/ベンチ56、講壇4、スチール戸棚1、掲示板1</td></tr><tr><td>3</td><td>Bajna 小学校</td><td>鉄筋コンクリート構造2階建校舎、6教室、職員室、トイレ、擁壁、校門、標識、水タンク、浄化槽など</td><td>机/ベンチ70、講壇6、教師用椅子6、教師用机1、校長用椅子1、スチール戸棚1、掲示板1など</td></tr><tr><td>4</td><td>Chontri 小学校</td><td>軽量鉄骨構造1階建て校舎、3教室、擁壁、校門、標識など</td><td>机/ベンチ42、講壇3、スチール戸棚1、掲示板1</td></tr></table> 上記のような設備を整備した他、教育局の基準に則った規格の家具を各学校に支給した。家具を含む学校施設は建設完了後、郡教育局に管理が移譲され、政府の責任で継続運営されるよう、郡政府と書面にて移譲の確認を行った。また、学校設備が適切に管理されるよう維持管理の仕方を示した啓発ポスターを作成し、各学校に掲示した。 (イ) <u>女子教育普及を促す質の高い教育確保や環境づくりに向けた、教師、保護者への研修実施と生徒会の組織強化</u> 整備した4校でより質の高い教育を提供できるよう、ハード面の強化に等しく重要なソフト面も強化した。対象校の教師や保護者ならびに生徒会の能力強化を図ると同時に、女子にも開かれた教育、授業、学校生活が実現できるよう、学校関係者らが女		学校名	工事内容	供与家具	1	Bakki Pakkha 小学校	鉄筋コンクリート構造2階建校舎、6教室、職員室、トイレ、擁壁、校門、標識、水タンク、浄化槽など	机/ベンチ70、講壇6、教師用椅子6、教師用机1、校長用椅子1、スチール戸棚1、掲示板1など	2	Taar 小学校	コンクリート構造2階建校舎、4教室、トイレ、擁壁、校門、標識など	机/ベンチ56、講壇4、スチール戸棚1、掲示板1	3	Bajna 小学校	鉄筋コンクリート構造2階建校舎、6教室、職員室、トイレ、擁壁、校門、標識、水タンク、浄化槽など	机/ベンチ70、講壇6、教師用椅子6、教師用机1、校長用椅子1、スチール戸棚1、掲示板1など	4	Chontri 小学校	軽量鉄骨構造1階建て校舎、3教室、擁壁、校門、標識など	机/ベンチ42、講壇3、スチール戸棚1、掲示板1
	学校名	工事内容	供与家具																		
1	Bakki Pakkha 小学校	鉄筋コンクリート構造2階建校舎、6教室、職員室、トイレ、擁壁、校門、標識、水タンク、浄化槽など	机/ベンチ70、講壇6、教師用椅子6、教師用机1、校長用椅子1、スチール戸棚1、掲示板1など																		
2	Taar 小学校	コンクリート構造2階建校舎、4教室、トイレ、擁壁、校門、標識など	机/ベンチ56、講壇4、スチール戸棚1、掲示板1																		
3	Bajna 小学校	鉄筋コンクリート構造2階建校舎、6教室、職員室、トイレ、擁壁、校門、標識、水タンク、浄化槽など	机/ベンチ70、講壇6、教師用椅子6、教師用机1、校長用椅子1、スチール戸棚1、掲示板1など																		
4	Chontri 小学校	軽量鉄骨構造1階建て校舎、3教室、擁壁、校門、標識など	机/ベンチ42、講壇3、スチール戸棚1、掲示板1																		

子やその他の子どものニーズを考慮し、学習や学校活動への参加を妨げる障壁を取り除いていく方法を含めた研修を実施した。また、研修に先がけ、2017 年 10 月から 12 月に、対象 3 村の教師、保護者、生徒および村の代表などの住民計 30 名を対象に、女子教育についてどのような理解を持ち、行動がとられているかを測る KAP（知識、態度と行動）調査を実施し、関係者の現状分析を行った。その結果は各種研修モジュールの作成に反映した。研修の実施日程および概要は以下のとおり。

表 2：研修実施概要

研修対象	参加者	期間	日程	概要
教師	28 名 (含女性 19 名)	5 日間	2018 年 1 月 22 日～26 日	教育方法論と近代的教授法 生徒の学習成果確認法 学級経営とレッスンプラン作成 アクティビティベースの学習法 教員のための専門基準
PTC (日本の PTA に相当)	32 名 (含女性 5 名)	4 日間	2018 年 2 月 12 日～15 日	PTC の役割と責任 定期会合、会計管理など運営方法 学校運営への参画方法 校舎の維持管理計画 子どもの権利と女子教育の重要性 教育課題の共有、議論
生徒会 (SRC)	32 名 (含女子 18 名)	1 日間	2017 年 12 月 12 日 (Bajna), 18 日 (Taar), 21 日 (Bakki Pakkha & Chontri)	SRC の役割と責任 学校活動向上計画 子どもの権利
教育局 職員	39 名 (含女性 12 名)	2 日間	2018 年 4 月 28 日～29 日	質の高い教育の重要性 質の高い教育の評価法 包括的な教育の重要性と取組み 教員のための専門基準

教師研修では、ロールプレイやゲームなどアクティビティを取り入れた参加型の学習プログラムを中心とした。生徒の学習度合を確認しつつ、生徒が主体的に授業に参加するにはどのような手法が有効か議論や実習を含め指導した。特に、女子生徒が抱える問題やニーズに配慮できるよう教師の理解を促した。また、現地政府が UNESCO の協力で開発した公立校教師向けの専門基準に沿った教授法をあわせて紹介した。

PTC 研修では、保護者やコミュニティの果たす重要な役割と責任について詳細に説明するとともに、学校教育改善に貢献すべき点について共通の認識を得た。研修ではシミュレーションやディスカッションを用い、教師や保護者、コミュニティが今後どう学校活動に関われるかを学んだ。加えて、女子の低い就学率やドロップアウトの問題について共有し、そうした課題解決にも貢献していけるよう動機付けした。

さらに、各学校で形骸化していた生徒会のメンバーに対し、生徒会が持つ役割と運営可能な学校内の小規模プロジェクトについてディスカッションを交え指導した。生徒らはグループワークを通じて楽しく学ぶとともに、男女が協力し合える生徒会組織の運営や皆が等しく安心して勉強できる学校の将来のイメージなどを話し合った。

教育局職員へは、質の高い教育を体系的に全公立学校で確保できるよう、その重要性や評価法を指導するとともに、ジェンダーへの配慮が行き届いた学校環境作りについて議論し、その後の教育局によるモニタリング・評価計画に反映できるよう促した。

	(ウ) <u>地域における女子教育理解促進のための啓発活動</u> コミュニティとの密な連携や信頼関係が築けるよう、全対象校で着工式を執り行った。地域住民や教育局職員、宗教指導者、ソーシャルワーカーら計 300 名超が参加し、事業目的や女子教育の重要性について理解を広めた。また、上述の KAP 調査では、教師や PTC 間で「子どもに優しい学校環境」の概念を知らない、PTC の構成人数が足りない上に母親の参加がほとんどない、課外活動に女子の参加を促す教師がいない、などの現状も判明した。本調査に伴い、保護者計 70 名がディスカッションに参加し、地域における女子教育の現状や問題点について具体的な見解も交わされた。調査のデータは各研修に反映したほか、事業活動への女性の巻き込み方などにも活用した。 また、関係者の女子教育に対する認識を広げるべく、ニュースレター「New Morning」を 2017 年 12 月および 2018 年 6 月の計 2 回、各回 100 部発行し、各学校の生徒や教師、保護者、および州・郡レベルの教育局職員に広く配布した。学校関係者による活発な学校活動の取り組み例や女子復学者増加のニュースなどを掲載している。
(3) 達成された成果	ア) <u>女子教育普及のための学校環境整備</u> 4 校の学校環境を整備した結果、5～14 歳の生徒 1,450 名（男子 580 名、女子 870 名）に安全で充実した学習環境へのアクセスを確保できた。新校舎の完成により、子どもたちの学習への意欲や集中力が高まり、主体的な通学の継続を促せた。特に女子の通学を阻んでいた要因のトイレなどの衛生設備や擁壁の整備により、入学を留まっていた子どもの登録を進める女子の保護者が増えるなど、女子生徒が通いやすい環境が整えられたとの声が学校関係者より多数聞かれている。 対象地では、建設工事が円滑に進められるよう地域住民による様々な貢献を得た。住民間のトラブル対応を含む建設活動の監視、建設地への行路整備への労力提供など地域住民の理解や協力は不可欠であった。また、Chontri 小学校では、コミュニティによる貢献でトイレ棟が校内に建てられるなど住民の自助努力への意欲も表れていた。 郡教育局、郡復興局など政府関係者による事業地訪問は、事業を通じた行政職員の参画を促し、当局との密な連携を可能にした。特に郡レベルの行政は事業終了後の校舎の維持管理や学校活動への協力に理解と合意を示した。指標の達成度は次の通り。 ● 対象学区の生徒の 97%が学校へ登録した。 ● 生徒の登録率が現在 73%から 98%に改善した。 ● 生徒の継続率が 55%から 97%に改善した。 ● 女子生徒の中退率が 46%から 1%に減少した。 ● 当初中学校の存在しなかった村で、非就学状態であった 40 名の女子生徒が新規に中学校への進学を果たした。 イ) <u>女子教育普及を促す質の高い教育確保や環境づくりに向けた、教師、保護者への研修実施と生徒会の組織強化</u> 研修を通じて、教師、PTC、生徒会、および教育局職員の能力が向上するとともに、それぞれの役割を果たすことへのモチベーションがアップし、学校の教育現場で数々の前向きな変化が見られるようになった。まず、学校では、研修の学びを活かし、多数の教師が双方向のコミュニケーションを中心とした授業運営やアクティビティを取り入れた学習法を実践するようになった。LESSN プランを事前に作成したり、生徒の習熟度を定期的に評価するなど、授業の質も上がっている。Bakki Pakkha 小学校では、コストをかけない指導法や学習環境改善の教材を教師らが自主的に開発している。また、生徒が製作した創作物で壁を飾るなど子どもたちにとって学びやすく居心地の

良い環境作りに励んでいる。一方、Taar 小学校では、生徒が授業に活発に参加し、アイデアを引き出すことができるよう、質問形式の学習法を実践している。なお、全 4 校において学習計画が教室に張り出されると同時に、教師により生徒の学習度合が個々に記録されるシステムもできている。さらに、教師と女子生徒の保護者らとの面談が全 4 校にて行われ、学力や対人関係スキルについて、話し合いが持たれるなど、女子の勉学継続の促進に向けてフォローアップが開始された。

PTC の研修後、校内施設の維持や美化、女子生徒の登録促進への働きかけなど、保護者らが学校活動に積極的に関わるようになってきている。全 4 校の PTC それぞれが学校活動改善計画を作成し、限られた期間内に実行すべく、責任者の選出も行われた。Bakki Pakkha および Chontri 小学校の PTC は、子どもたちの衛生管理に必要な水源の確保に関し、金銭または労力を提供した。また、非就学の女子の復学を促すべく、PTC が近隣住民へ働きかけを行ったところ、Bakki Pakkha の PTC が、3 年以上通学していなかった女子計 10 名の復学を実現させるなど、特に高い自主性と意欲が見受けられた。

生徒会のメンバーは、各々の役割について自負をもって認識し、特に日常的な学校活動における女子の積極性が目立ってきている。Bakki Pakkha と Taar 小学校では、生徒会がスポーツの行事を企画、また Bajna と Chontri 小学校では生徒会主催によるスピーチコンテストが行われた。Bakki Pakkha、Taar、Bajna の 3 校では、全校朝会の開催で生徒会が教師を補佐したり、ごみ箱の設置により校内の美化やトイレの清掃に生徒会が責任を持つようになってきている。Bakki Pakkha 小学校の生徒会は、ドロップアウトした女子生徒の特定で PTC への情報提供を行った。また、生徒会員選出の選挙では女子を含む多くの子どもたちが立候補するなど男女協力の姿勢も確認できた。生徒会員の 56% を女子が占め、女子が中心となって企画、実施したスポーツイベントやスピーチコンテスト、子どもの日の行事などもあった。また、多くの女性生徒が教師に直接相談ごとをするのをためらうため、女性生徒会員が橋渡しの役割を担うことも多かった。

教育局職員対象の研修では、質の高い教育に対する理解が深まったと全員が回答した。研修後には教育局局長および次長が全 4 校を訪問し、校長を含む教師らと面会、今後密に連携していくべく交流を深めた。研修実施が事業終盤となったため、今次に予定していた教育局職員による学校環境改善計画の立案・実施は実現しなかった。代替的に、次年度において教育局と当団体スタッフによる共同モニタリングを実施予定であり、PTC による学校改善計画のフォローと必要に応じた見直しを行っていく。

上述のとおり、学校、家庭、地域、および行政間での連携に向けたコミュニケーションのパイプができると同時に、質の高い教育や女子の就学率改善に向けた課題などについて話し合い協働できる関係が整いつつある。指標の達成度合は次の通り。

- 教師の出席率が 75% から 96% に改善した。
- 教師の 87% が研修で修得したスキルと手法を実践に移している。
- 教師が適切なLESSンプランを立てる、情報収集の上で授業内容を組み立てる、アクティビティを交えた学習方法を実践する、などの改善が多数見られた。
- PTC の 96% がその役割を認識し意識が向上したと回答した。
- PTC の 90% が学校活動に実際に参加するようになった。
- PTC が学校改善計画を立案・実践、女子の登録や通学継続への働きかけをした。
- PTC メンバー 64 名のうち母親層が占める割合が 18% にとどまった。
- PTC が定期的に会合を開催し、議事録を取るようになった。
- 生徒会の 96% がその役割を理解し、85% が担当の仕事に積極的に取り組んだ。
- 生徒会の会合が月次で開催されるようになった。

- 各学校で、生徒会の企画によるスポーツや課外活動が実施された。
- 生徒会がゴミ箱を設置し、校内の美化活動を促すなどの事例が多く報告された。
- 研修を受講した教育局職員全員が、研修により生徒の学習能力の評価法や学習成果の改善法について理解が深められたと回答した。

ウ) 地域における女子教育理解促進のための啓発活動

対象 3 村において、女子教育普及の啓発活動を行うアドボカシーグループ(各 10 名)が立ち上がった。同グループは地元の教育課題や女子教育にかかる現実的な課題に取り組む行動計画を作成、実践している。コミュニティとの関係構築には継続的かつ建設的なコミュニケーションを要したがその成果は住民の行動変化に最終的に表れた。

子どもたちが通学や課外活動へ参加しやすいよう、道路舗装のための資金を相互扶助により住民が集め始める、女子の安全な通学路確保のため住民の協力で見守りボランティアが配置される、などの事例が出た。また画期的な例として Bakki Pakkha 小学校のある村のアドボカシーグループの功績が挙げられる。同グループは立ち上がって以来、定期的に学校活動にかかる具体的な問題について教育局に共有してきた。中でも同村に女子の通える中学校が存在せず、小学校卒業と同時に進学を失ってしまう女子が多数あることを喫緊の課題としてあげ、教育局へ積極的に働きかけた。その結果、州当局が女子中学校開設に向けて事前調査を行い、その実現を約束している。中学校建設までの期間は暫定的に既存の男子中学校へ女子が入学できるよう当局が調整している。また、事業終盤に実施した Bakki Pakkha 小学校の落成式には、教育局や復興局の職員を含む 600 名以上が参加した。僻地の山村において同小学校は、学校と地域住民が主体となって女子教育を促進するモデルスクールとしても期待できる。2 回発行のニュースレターは、対象学区以外にも広く配布することにより、近隣地域の住民にも情報が拡散し、事業成果が広く理解されその経験の普及が可能となった。

広く住民を巻き込む機会を作るよう努めたが、対象地の社会的慣習から女性の参加には困難を伴った。女性たちは様々な場に参加するものの意見を出すことを拒んだり遠慮したりするケースが多く、そうした場には可能な限り女性スタッフや女性教師を動員し対応した。また、地域の慣習も尊重しつつコミュニティとの丁寧な対話を心掛けた。女子教育の鍵となる女性教師や母親層の実質的な動員が依然課題であることから、組織化されたアドボカシーグループを上手く絡ませ、女子の就学の肯定化および女性の活躍を地域が受け入れ評価する環境を作っていくなどして今後のさらなる改善につなげたい。また、学校現場と保護者、および教育局との間にできたつながりや連帯感が今後の教育課題改善に向けた連携へと発展することが期待される。男女ともに学びやすい公立学校の環境整備と質の向上に貢献した本事業は、SDGs の目標 4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」の 4.1 および 4.2 の視点でその実現に具体的に資するものであったと考える。

(ア)～(ウ)の活動を通じた直接裨益者数は 5 歳～14 歳の生徒 1,450 名(男子 580 名、女子 870 名)、教師 32 名、PTC32 名、生徒会 32 名、教育局職員 39 名、および啓発活動参加住民 1,000 名、ならびに間接裨益者は約 37,000 名である。

(4) 持続発展性

2018 年 5 月に各学校への引き渡し式を行い、校舎や備品の引き渡しにかかる合意事項について教育局の署名を含め覚書を交した。各学校の管理は郡教育局へ正式に移譲され、教師の給与や運営費は政府予算により確保されていることから、事業終了後も継続的な運営が担保されている。また、学校校舎の維持は、政府の方針により、PTC に対し申請ベースで年次の補助金が支給される。ソフト面においても、教育局が今後年次で教師の能力評価を行い、必要に応じ教師への研修を継続していくことを保証している。加えて、各村で結成されたアドボカシーグループからは、事業終了後も校舎

(様式 4)

の維持や学校活動に協力するなどの合意を取り付けている。さらに、研修への参加で教師や PTC、生徒会の意識が向上し、各アクターとして自身の責任を強く認識するようになり、既に学校活動へも活発に参加している。また、女子教育の重要性を深く理解したアドボカシーグループを中心とするコミュニティは、村のニーズと行政によるサービスがより合致していくよう、行政にも積極的な働きかけを継続していく。